

氷山の警戒 (ソード)

一九一二年四月十四日、北緯四十一度四十六分西經五十度十四分の地にて氷山に衝突し、大旅客船タイタニックが沈没し、千五百の人命が行衛不明となり、全世界の耳目を驚かした。それから一ヶ月後、米國の水路部から同國海軍省に對し、もし看視巡邏船を配置するならば、かゝる危険を事前に防ぎ得る事を建議したので、早速其實行にかゝり、一九一三年に至つて The

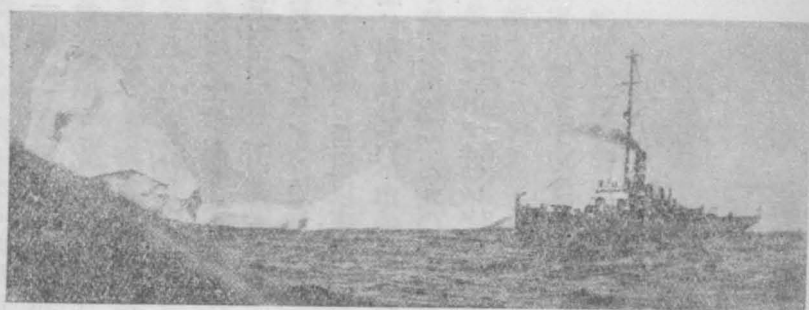
U S Revenue Cutter Service (沿岸警戒船局) がその事務を執り二艘のカッターが代る代る其任についた處英國船で南極探險で有名なスコチア號もこれに協力し、種々氣象學上又は海洋學上有益な測量をやつたのであつた。同年の秋には愈倫敦で海上の生命保全會議が開催される事になり、其結果十四の海國が一致して、北太平洋の尤も危険な氷山浮流海面を爾後毎年引つゞい

て警戒することに同意し、一九一四年一月二十日、米國はこの事業の遂行を引受けたので、他の國は其國に屬する船の總噸數の比例で費用を負擔することに定まつた。

一九一四年以後、一九一七年と一八年は戰時で中止したが、其後引續き米國が沿岸警戒の任に當り、毎年米國から尤も新しくて艦裝の尤も完全なカッターを二艘任務に就かしのめる事になつてゐる、而して去る二年間は、モドック及タンバの姉妹船が、これに従事し、三月から六月まで、もし必要な時には七月までハリファックスに其根據地を置いて出動した。其服務は氷山浮流區域を、十五日間宛交代で見張るので、ハリファックスの往復日數は、この勤務外である。看視調査の主任は E. H. Smith 大尉である。この二年間といふものは常に外海にあり、十五

るのであるが、一旦海に出た氷山は、水の流れと風のまに／＼従ひ多くは沿岸附近に停留する、其の中のあるものが、あちこち動く間に偶然ラブラドル寒流に乗ると、南下する事になる、其途中或はラブラドル海岸に押し上げられることもあるが、南下した氷山は大抵 Great Bank の北側で見えなく、溶け去るのであるが、時に其一部分がニウファウンドランドの南岸に沿ふて西へ動くのであるが、これが災害の根源になる。蓋し歐洲通の汽船は大圏航路に近づくために、このグレートバンクの南端を掠めて或は東し或は西することになつてゐるので、このバンク附近で氷山に逢ふのである。こゝは寒流と海流との衝突地點であるから、海水は多少渦流を起し、流も早くなつて、爲めに氷山は前後に動き、其の行路が不定で、従前は其の運動の方則が知れなかつたが、一九二一年四月十一日から五月十二日迄の間に非常に大な氷山が流れて來た時、一ヶ月間に四度も看視の目に入つたが、其時々

ある事が明になつた爲めに、はじめに一般の氷山の流下運動の方向を知ることが出來た。氷山の流速は處によつて違ふが、バンクの南端で寒流にのつてゐる時には、最高一時間〇・七哩の速度を示めす。そこでこの速力でバツフィンランドのケープ、ダイエルから、北緯四十五度のこの海迄くるのに、五ヶ月は経過した事になる、しかし暖流の上では決してかく長持ちがしないで、寒流の南端から纔に數哩にして消えてしまふ、従つて航海上尤も注意すべきは、この寒暖二流の會點である、看視船はこゝで主として海水の溫度を知らねばならぬ、故にこの危険界に入る一般の航海者に對しても、海水溫度の測量報告を求めつゝあるのである、勿論この暖寒二流の區別は溫度によらずして、一目判然たる場合がある。それは水色の差である、タンバ號がこの境界を横ぎつた時に、船の首は華氏三十四度であるのに、船尾は五十六度であつたから、氷山を前にして船員が海水浴をした位である、蓋し歐洲行又は北米行の船はこのバンク



山氷大さ號パンダ

の南端を掠めるのが尤も近くして、しかもこゝでは、年によつて寒流の前進が違ふのであるから、或時は氷山が南に下り来る恐れがある。これ看視を要する最大原因である。看視船の任務はこういふ状況に應じて、氷山の南と東と西の境界を定め、汽船をこの線内に立

入らしめぬのであるが、同時にパンクの南端に當る海上搜索を行ひ、もし氷山が見つかると直ちに之に近づき精細にこれを調査し、繪畫にとり、寫真にうつし、海圖に位置を入れて置く、霧の深い日にはこういふ作業はとても出来ぬから、船は錨をあげて漂遊する、そして氷山と共に漂流の速度を測定したりする、夜や濃霧の際にはサーチライトで氷山の位置を見失はぬやう努力する。

看視船はこの外に無線電信で氷山出現海域北緯四十度以北西經五十五度以西の海上に居る各船からの報告を日夜處理する、しかして各船の位置は、其報告に従つて、看視船備付の海圖上に記入されてゆく、もし氷山の危険があると、直ちにこれに警告を發する。もし今迄見えなかつた氷山が突然出現する時は、直ちにその附近の船舶に通知すると同時に看視船は進んで其氷山をしらべる中々多忙である、時には水雷で氷山を爆發させることもあるが、それは稀なことである、タンパ號の見た氷山の中には高六十五呎

鴨綠江解氷年表

大正元年以後十二年間に於ける税關支署の調査

幅一六九〇呎もある大氷山がある、これは恐らく三千六百萬噸からの大氷塊であつたであらう(寫眞參照)こんな大な塊を破ることは現在の人力の及ばざる所で、唯海水のみこれをよくする所である。しかし氷山を見た普通の船は、ともすれば過大に報告するもので、看視船へ、今三百乃至四百呎の高があり、一哩の廣ある氷山を發見したなごゝ通知してくるが、實際そんななもの、看視以來見たことがない。過去四年間に現はれた氷山の最高は海面上二百四十八呎で最大は幅一六九〇呎のものであつた。

(シオカラフキカルレビユウ) (藤田)
第十四卷一號シ、ワード氏

年 別	楡の交通杜絶	流 氷	航行開始	全解氷
大正元年	三月五日	同 九日	三月一六日	同 一九日
同 二年	三月一七日	同 二六日	三月二八日	同 三一日
同 三年	三月一日	同 六日	三月一日	同 一三日
同 四年	四月一日	同 四日	四月 六日	同 八日
同 五年	三月二七日	同 二六日	三月三一日	四月三日
同 六年	三月一日	同 一八日	三月二五日	同 二六日
同 七年	三月二四日	同 一七日	三月二二日	同 二六日
同 八年	三月二三日	同 一六日	三月一七日	同 二一日
同 九年	三月一七日	同 一六日	三月二三日	同 二五日
同 十年	三月九日	同 二二日	三月二五日	同 二八日
同 十一年	三月一日	同 一二日	三月二二日	同 二五日
同 十二年	三月一六日	同 一七日	三月二八日	同 三一日